

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 B-16 人権・同和教育基礎講座②

「教科書無償化の取組から学ぶ」

【講師】 伊賀市教育委員会 指導主事 村田 憲彦 先生

「統一応募用紙の精神に立ち返って」

【講師】 伊賀市教育委員会 指導主事 百地 大輔 先生

8月22日(火)に研修講座「人権・同和教育基礎講座②」を実施しました。講義の前半は、伊賀市教育委員会の村田指導主事より「教科書無償化の取組から学ぶ」と題してご講義いただきました。教科書無償化になるまでの人々の暮らし、部落差別の現実から運動が始まり、教科書無償制度が実現するまでの取組について学びました。



1960年頃、教科書を買えないだけでなく学校に行きたくても行けない子ども、行けたとしても新しい教科書を持つことができなかつた子どもがいました。その背景にはクラスの子からだけでなく先生からも疎外されるなど部落差別の現実がありました。その現実から子どもたちを「学校に行けるようにさせたい」「新しい教科書で勉強させたい」という思い、そして「人間らしく生きたい」という願いから全国各地で教科書無償化運動が始まり、1969年にはすべての義務教育諸学校の教科書無償給与が実現したというこれまでの経緯から無償化に至るまでについて学びました。最後に村田指導主事より4月に児童・生徒へ教科書を配付する際、「どのように、どのような熱量で伝えますか」という問いかけがありました。これらの話から教科書を配付する際だけでなく、あらゆる教育活動の場面で伝える際の考えるきっかけになると思いました。

講義の後半は、百地指導主事より「統一応募用紙の精神に立ち返って」と題してご講義いただきました。初めに「進路保障は同和教育の総和である」という話がありました。単に子どもたちに進路先を紹介して、決定すれば「それで終わり」ということではなく、子どもたちの将来をどう保障していくか、子どもたちの将来を見据えた上で「今、どのような力をつけることが必要なのか」を常に考え、取組を進めていく必要があることを確認しました。次に「なぜ、統一応募用紙が作られたのか」について話がありました。そこには、ある生徒が企業の就職応募用紙の身上調査書を記入しようとした際、「本籍地」「家族構成、卒業学校および職業」などの項目を目の前にしてペンが止まってしまった。この生徒の思いや悩みに教師は気づくことなく平気で書かせてきた。この悔恨の思いから運動が始まり、1973年「全国高等学校統一用紙(統一応募用紙)」の制定へとつながったことを学びました。これらの話から不適切事例に潜む差別性に気づき、その差別を解消する取組の歴史や意義を学ぶことの大切さを改めて感じる事ができました。本講座で学んだことを各校・(園)で還流いただきますようよろしくお願いいたします。



アンケートより 【一部抜粋】

- ・自分たちが教科書を無償で使えていたのは、いろんな人の取組や行動があったことを忘れてはいけないと思いました。今の子どもにも学年に応じて無償化についてしっかりと伝え、無償であることを当たり前であると思わせないようにしていくことが大切であると思いました。(小)
- ・統一応募用紙の取組では「おかしい」と声をあげた人たちがいて、それをみんなで行動して今の状態ができたことを子どもたちに伝えていき、自分が生活する中でおかしいと声を上げられるような子どもたちを育てたいと思いました。(中)